

実践報告『国語科教育法』

国語科教育法を担当して今年で五年目になる。ただ本学ではこの科目は後期に開講されているので、本稿執筆現在その担当経歴は正確には四年ということになる。

昨年までと本年度とで大きく変わったことが二つある。一つは、中学校教員免許を取得するために必要な教職専門科目の最低修得単位数が一〇単位から一五単位へと大幅に増加し、同時に科目の再構築が行われたことに関係があるのかないのかまだ分からないが、教職課程の履修者数が増加したことである。教職課程を選択し、国語科教育法を当然履修することになる国文学科の学生数は、この四年間（毎二四〇余人中）一二人から二二人の範囲で推移していたのであるが、本年度は三〇人を優に超えるという。実際に科目を担当している者の立場からするならば、この事態は制度の改変以上に大きな変化といわなければならない。

もう一つは、国語科教育法の時間割上の位置が、水曜日の第四時限から、月曜日の第一時限へと移動したことである。本学の授業時間は

久保朝孝

九〇分を単位として編成されているのだが、私はこの科目に限り二〇分延長して授業を行ってきた。本学では一日四時限編成となっていて第五時限が開設されていないためこれは可能であった。しかし、第二時限が否応なく次に控えている時間帯ではこれはまったく不可能となる。履修者数の増加と授業時間の減少という二つの変化は、必然的に授業方法の見直しを私に迫るところとなったのであるが、今のところまだその有効な対応策が見つからないでいる。そこで過去四年間のうち最も現在に近い昨年の国語科教育法の授業を振り返り、それを整理しここに紹介することによって、工夫に満ちた優れた授業を実践なさっている方々よりのお教えを仰ぎたいと思う。

なお本稿は、紙幅が限られていることもあり、私の授業実践のすべてを報告するものではない。半期一五回という制限の中で、この科目の開設目的を満たすために私がいかなる授業設計をして、その結果がどうであったのか。いわば方法の概要に限定しての報告であり、意図・経過・分析・評価を除いたものであることをまず断っておきたい。

資料 1

国語科教育法授業計画

1990.10.3.Wed.
久保朝孝

- | | |
|-----------------------|----------------------------------|
| 第1回10/ 3 試験『国語科教育研究』 | 受講者紹介・授業計画説明 |
| 第2回10/17 模擬授業（授業演習）0 | 教材候補作品提出→全員へ配布 |
| 第3回10/24 | 教材候補作品評価表提出
模擬授業採用作品・実施者・順番決定 |
| 第4回10/31 模擬授業（授業演習）① | |
| 第5回11/ 7 模擬授業（授業演習）② | 日本国憲法試験 |
| 第6回11/14 模擬授業（授業演習）③ | 教育基本法試験 |
| 第7回11/21 模擬授業（授業演習）④ | 学校教育法試験 |
| 第8回11/28 模擬授業（授業演習）⑤ | 学校教育法施行規則試験 |
| 第9回12/ 5 模擬授業（授業演習）⑥ | 中学校学習指導要領〔総則〕試験 |
| 第10回12/12 模擬授業（授業演習）⑦ | 中学校学習指導要領〔国語〕試験 |
| 第11回12/19 模擬授業（授業演習）⑧ | 中学校学習指導要領〔道徳〕試験 |
| 第12回12/26 模擬授業（授業演習）⑨ | 中学校学習指導要領〔特別活動〕試験 |
| 第13回 1/ 9 模擬授業（授業演習）⑩ | 試験問題提出→全員へ配布 |
| 第14回 1/16 模擬授業（授業演習）⑪ | 試験解答・批評提出→出題者へ |
| 第15回 1/23 模擬授業（授業演習）⑫ | 採点解答提出→解答者へ→批評提出
→出題者へ |

定期試験（90分間） 「学習指導案」作成

1 授業準備

年度当初すべての学生に配布する『履修要覧』（平成二年度版）「授業概要」の国語科教育法の項には次のように記した。

国語科教育の目的・内容・構造・史的展開等については、各自下欄に指定するテキストにより、授業開始までに十分理解しておくこと。第一回授業時にその試験を行う。

毎回の授業は、「授業演習」とその相互批判を中心に行う。全員が一度は教壇に立つことを原則とする。「授業」のための教材選択・教材研究・学習指導案作成の意義と重要性及び具体的授業法について、実践的に体得することを目標とする。また「授業」評価の一法としての「試験」問題作成についても、相互批判的に取り組む。

さらに教職関係の基礎的教養・知識の深化拡大の機会を不断に提供する。

◎中学校高等学校 国語科教育研究・改訂版
（全国大学国語教育学会編 学芸図書）

〈相互批判〉（実践的体得）をキーワードとしたつもりである。

なお最初の一文については、平成三年度版では「下欄に指定するテキストにより、授業開始までに学習指導案が作成できるようにしておくことが望ましい。」と改め、テキストを『新国語科教育法』（榎本隆司編著 学文社）に改めた。平成二年度版に言う第一回授業時における試験とは、これまで四回ともすべて教材を示しての学習指導案作成

であったから、実際に即した内容に変えたわけである。また、本文中「授業演習」の語の後に（模擬授業）を加えた。

2 授業計画

前頁（資料1）が半期一五回分の授業計画である。これを第一回の授業時に配布し、説明する。

第二回及び第四回〜第一五回の計一三回、模擬授業を実施する。各回の授業時間配分は原則として次のとおり。

- I 四五分間 模擬授業
- II 四五分間 授業批判
- III 二〇分間 小テスト等

第一回の授業内容は次のとおり。

- ・ 試験（学習指導案の作成） ↓ 回収・批評・返却
- ・ 教職課程履修動機の調査 ↓ 一部紹介 [例：資料2]
- ・ 「授業計画」の説明
- ・ 次回授業の準備 ↓ 模擬授業第0回（練習）担当者決定
- ・ 自己紹介カード配布 ↓ 記入させ翌週回収 [例：資料3]

平成二年度の履修者は一九人。その平均的履修意識を〔資料2〕によって知ることができる。

自己紹介カードは印刷して一冊に綴じ、第三週に全員に配布する。お互いを知るためである。

「なぜ教職をとったのか」

資料 2

まず第一に後悔したくなかったからです。後から「やっぱり履修しておけばよかった」と思いたくなかったからです。時々「とらなか、の方が良かったかな」と思うこともありますが、それでもとらなか、の場合を考えてみると、やはりとってよかった、たと思ふことが多いのです。そのため、後期も履修することになりました。

次に、他の講義では受けられない授業が受けられるからです。それらは、確かに授業数のことだけでなく、様々な面で大変ですが、充実している、と言えると思います。そして同じ授業料なのに、これだけのものをうけていて、何か少し得したような気分になります。

最後にやはり免状がほしい、たからです。採用試験を受けるかどうかはまだ決めていませんが、これは単に「公文」などの先生をするにも免状がいるらしいと春頃に聞いたのがきっかけで、ほしいと思いました。

資料 3



別に私、キリスト教徒じゃないけど、イエスの個人は結構... 大分... 好き... 聖書って読んでみるとおもしろいね (おもしろいけど) かも 実には熱心な鎌倉信者である私は (か) としよ 浄土真宗信者 (平成三年の大河ドラマが) 不平記があるって聞いて期待 20% 不安 80% の変化を期待する。(配役がまた気に入らない)

- 1 〒 470-22
知多郡阿久比町宮津山田 1-126
- 2 西 (0569) 48 -
- 3 乙女座
- 4 O型 (RH+)
- 5 愛知県立阿久比高校
- 6 美術部、放送部
- 7 セミナー
- 8 最近料理にこまじい。料理が得意。
- 9 リエちゃん。
- 10 遠藤同作「イエスの生涯」

3 教材選択

毎回の授業の中核となる模擬授業の教材を全員で選ぶ。教材は現行の中学校教科書からは採らず、自分たちで探すこととする。条件は次のとおり。

- ・対象 中学二年生(男子二〇人・女子二〇人)
- ・時期 一学期六月前半
- ・内容 自由
- ・量 一回の授業で完結できるもの

第一回の授業時に右の指示を出し、第二回授業時に提出させる。用紙はB四判に統一。第二回授業開始時に集め直ちに印刷に回し、授業終了時には全員の選んだ教材候補を全員に配布する。

第三回の授業時までに、自分以外の全員が選んだ教材候補に対し評価をし評言を付すことを課題とする。評価は★★良、★★優、★中、★可、それ以外は不可とする。

課題を提出した一六人が探し出してきた作品は次にあげるとおりであった。

- A 「透明人間になりたい」 寺山修司 45
- B 「雲の信号」 宮沢賢治 39
- C 「フレネ自由学校だより」 原章二・原光枝 38
- D 「花嫁」 石垣りん 37
- E 「レモン哀歌」 高村光太郎 37
- F 「ぼろぼろな駝鳥」 高村光太郎 36

G 「児の搔餅するに空寝したる事」 宇治拾遺物語 36

H 「なめとこ山の熊」 宮沢賢治 35

I 「心中」 川端康成 35

J 「落葉松」 北原白秋 31

K 「吾輩は猫である」 夏目漱石 29

L 「注文の多い料理店」 宮沢賢治 28

M 「家庭料理」 内海隆一郎 27

N 「ユーモラスな現代」 辻まこと 26

O 「守の家」 伊藤左千夫 20

P 「余録」 五編 毎日新聞 8

第三回授業開始時に課題の評価表を集め直ちに印刷に回し、出来上がると同時に全員に配布し、自分の選んだ教材に対する評価を確認させるとともに、★の数合計させる。

各作品・著者名下に記した数字は評価の星の合計数であり、その数の多い一二編が採用と決まった。そして、その教材を使って模擬授業を行うのは、当然ながらそれを選んだ本人とする。

次頁にこの評価表の一部を掲げた(資料4)。

現行教科書に採用されている作品群、つまりは自分たちが生徒として触れた作品群の持つ、トータルとしての「教材」のイメージから離れてどれだけ自由に選択がなされているのか、疑問がないわけではない。あるいは「教材の選択」という一点に絞って一五回の授業を組織することも可能ではあるが、今はこれ以上深追いをしない。

国語科教育法 『教材選択と批判』

1990. 10. 24. Wed.

学籍番号 902307 氏名 伊藤栄里子

評価	姓	評言
★★☆	江淵	一行一行に意味がこめられている。おもしろい作品である。 何かを作り出す授業をするには適した題材だ。ただ理解 (お)とか、主題を見つけてお、というところでは、やはり教師の技量と要する。
★★★	奥村	わかりやすい語句が使われているのが良い。この詩の情景が 生徒の心に浸透すれば、……の……。授業をすすめていくには 教師側がこの詩が好きでないと難しいと思う。
★★★	林	短い中にも石垣りん独得の、何げない感動が詰まっている。 私も自身の心の動き(驚き、喜び)、お、人と人との関わりを 学ばなければならないと思う。
★★☆	太田	ユーモアと共に、中学生には分かり易い題材だと思う。 ただ、この文章を使って、作り出す授業を進めていくとなると 少し難しいのではなからうか。
★★☆	加藤	私自身、好きな作品であり、同時に考えさせられる。少し難しい 作品かもしれないが、授業のしがいがあると思う。
★★☆	北中	おもしろくて分かりやすい。ただ、振動、……と……とで、筋や展開に 理解できない部分がある。

(中 略)

★★☆	高多	この詩が中学生にとって、簡単な内容なのか、そうではないのか、 判断するのが難しい。深く読みとらせるには、時間がかかると思 う。
★★★	中島	一見簡単そうに見えて、奥の深い詩だ。このように形で世の 中を批判しているところが、おもしろい。これなら中学生にも理解 できると思う。
★★★	山田	中学生が古典に親しむためには適した作品だと思 う。内容を午頃がある。

資料 4

4 模擬授業とその批判

第1節に記したとおり、毎回の授業は四五分間の授業と同時間の授業批判とを中心にする。

まず、模擬授業担当者は授業日の二日前までに学習指導案を作成して私に提示する。指導案の形式は次のような極めてオーソドックスなものに統一。これに「予想される板書事項」を添える。

時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点

助言を受け、更に授業及び指導案に検討を加えて当日に臨む。

指導案作成に当たっては、条件をひとつづつ与えている。それは、どんなに小さな事でもよいから、実験的な試みをせよ、ということである。本稿は序文に記したとおり、私の国語科教育法の授業方法の概要を紹介する事が目的であるので、その方法の一つ一つのねらいであるとかその評価、あるいは諸現象の分析とかは割愛しなければならぬ。したがって、「実験的な試み」のねらいとか実際についてはこれ以上の言及を避けることとする。

授業時間中は、模擬授業担当者は教師であり、他の学生は中学二年生である。これも約束事として確認しておく。教壇に立つものは教師を演じ、椅子に座っている者は生徒を演ずるのである。したがって、

たとえば教師に指名され解答を求められたような場合、正解は得いても分からないふりをする、というようなことが許される。

模擬授業の終了と同時に演技者はすべて学生に戻り、まず全員が参加して今終了したばかりの授業の指導案が全員に配布される。次に教師を演じた者が感想を述べ、自己批評をする。その後、生徒を演じた者たちが挙手により授業の批判を行う。

この時、その授業の長所と短所の両方を必ずひとつずつあげる、ということ約束事としている。また、批判はよりよい授業づくりのための提言であって、自分自身に向けての発言でもあることを始めに理解させておく。

批判が一通り出尽くした後、もう一度授業担当者に発言の機会を与え、その後私が批判の整理・補足をして四五分間を終える。

批判はおよそ次の三つに大別される。

- ・ 教材の理解に関するもの
- ・ 授業技術、方法に関するもの

・ 教師としての姿勢（言葉づかい・マナー等）に関するもの
 なお、第二回の授業時に行う「模擬授業0」（資料1参照）は、第一回授業時に学習指導案を作成したその教材（現行教科書の中から採用、平成二年度は栗原貞子「生ましめんかな」【新訂中学国語2】教育出版）を使って行うもので、もつとも意欲的な者がこれを担当することになる。目的は学生の持っている既成の授業観を転覆させることにあるが、これ以上触れない。

資料 6

国語科教育法 第7回 中学校学習指導要領【道徳】

1990. 12. 26. Wed.

一、『中学校学習指導要領』第3章【道徳】第1「目標」の空所に入る適語を記せ。

道徳教育の目標は、□1□及び□2□に定められた教育の根本精神に基づき、□3□の精神と□4□に対する畏敬の念を□5□、学校その他社会における具体的な生活のなかに生かし、個性豊かな文化の創造と民主的な社会及び国家の発展に努め、進んで平和的な国際社会に貢献できる主体性のある□6□を育成するため、その基盤としての道徳性を養うこととする。

道徳の時間においては、以上の目標に基づき、各□7□及び□8□における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、生徒の道徳的心情を豊かにし、道徳的判断力を高め、道徳的実践意欲と態度の向上を図ることを通して、□9□としての生き方についての自覚を深め、道徳的□10□を育成するものとする。

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10		

二、『中学校学習指導要領』第3章【道徳】第3「指導計画の作成と内容の取扱い」4に

は、「道徳の時間における指導に当たっては、生徒が興味や関心をもつ教材を開発したり、個に応じた指導を工夫したりするなど、生徒が自ら道徳的実践力を高め、内面に根ざした道徳性の育成が図られるよう配慮する必要がある」とあるが、中学2年生2学期半ばを想定し、今具体的な道徳教材を次に記して見よ。実験的なものでよい。また、それが第2「内容」のどの条項に関連のあるものであるかも合わせて記せ。

5 小試験

模擬授業とその批判を終えた後、直ちに小試験を行う。これはあらかじめ授業計画の中に組み込んであるもので、各回（第五回～第二回の八回）にいかなる内容の試験が行われるか、学生は事前に承知している。したがって十分に準備をしてこの試験に向かうはずである。

設問は空欄補充式を主とする。（資料5・6）参照。

一〇分程度で解答した後、学生相互で答案を交換し採点する。

試験のタイトルを見ると国語科に直接関係のあるのは中学校学習指導要領〔国語〕だけであり、日本国憲法、教育基本法、〔特別活動〕等は教職専門他科目の領域を侵す恐れなしとしないが、これは教科教育法が他の教職専門教育科目すべてと密接に関連しあっていることを考慮したものである。

というのは下手な口実であって、実は教員採用試験の準備学習の一端のつもりなのである。（資料2）に見るような学生の履修意識、そして履修者中実際に採用試験を受験したものが三人（平成三年）という実態の中で、この科目の効果をあげることが極めて困難である。その開設目的を達成するためには何らかの工夫が必要であろう。

私の工夫は、「全員が真に教員となることを目指し、かつ教員採用試験を受ける」という虚構の設定である。そしてこれら数回にわたる小試験はこの設定を支える（装置）のようなものである。

敢えてこの点だけ、授業方法のねらいについて触れた。

6 試験問題作成

第一三回～第一五回にかけて、模擬授業とその批判の後の時間を使って、試験問題の作成とその批判を行う。

まず学生は第一三回授業時までに、それまでの模擬授業で取り扱われた中から任意の一教材を選び、次の条件により試験問題を作成して提出する。

- ・ 中学二年生二学期末試験の出題
- ・ 二〇分間で平均的な生徒がおおむね解答できる程度とする
- ・ 設問には選択式・記述式いずれの方法をも含む
- ・ 解答欄を用意する（四〇点満点）

第一三回の授業時、本人作成のものを除く全学生分の問題を全員に配布し、次回までに全学生（一八人一八種）の問題に解答するよう指示をする。さらに解答した後、各設問に対する批評を付記するよう指示を加える。

第一四回の授業時は、解答と批評を記した問題用紙を出題者に返し、次回までにすべて採点させる。なおその際、設問批評に対するコメントを付記させる。

第一五回授業時には、まず採点された問題・解答用紙を各解答者に渡して採点内容を確認させ、採点に異議ある場合はコメントを付記させる。その後、問題用紙は出題者に返却され、二往復の旅を終える。

一例を（資料7）として二頁にわたり掲げた。

7 成績評価

以上の学修活動全体にわたって細かく評価項目を設け、国語科教育法としての成績評価は、「資料8」に示した表によることとした。

評価項目15までそれぞれの点数を記した各人の成績評価表を定期試験終了時に手渡し、点数に不足があると認めた場合は、自主レポート提出により幾分か(最高一〇点)を加点できることとした。

レポートの課題は、斎藤喜博著『授業』あるいは『授業入門』を読んでの感想とした。

評点は次のとおり。

- 九〇点以上 二人
- 八〇点以上 九人
- 七〇点以上 五人
- 六〇点以上 二人
- 五〇点以上 一人

一九人で一五回の授業に対して、欠席延べ回数は一五回。そのうち四回欠席した者が最低点だった。

この国語科教育法の学修の成果を測るひとつの機会として教育実習があるとの見方に立てば、教育実習の成績評価(各中学校の担当教員が評価)に無関心でいることはできない。最近四年間の「優」取得率は、二三%↓一七%↓九%↓〇%と推移している。

検討課題のひとつであることを記しておきたい。

定期試験問題

次の物語を教材とした『学習指導案』を、後の指示にしたがって作成せよ。(予想される板書事項も記す)

〔実施日時〕平成三年四月一七日(水) 第二時限

〔実施学級〕名古屋市立〇〇中学校一年一組

〔単元〕一、新しい出発

〔教材〕杉みき子「あの坂を上れば」全文

(教育出版株式会社発行『新訂中学国語1』)

〔教材の目標〕自分を見つめ、中学校生活への第一歩をふみ出す。

〔配当時間〕三時間(各五〇分)

〔授業計画〕第一時 正しく朗読できるようにする。

語句の意味を明らかにする。

第二時 内容を正確に理解し、自分のものとする。

第三時 中学校生活の決意を、各自「作文」に

まとめる。

〔本時〕第二時

【付記】(相互批判)のためには履修者同士の相互信頼が不可欠である。信頼の前提として相手を知らなければならぬ。後期開始後できるだけ早い時期に親睦のためのコンパを実施している。また後期末には二年生を招いて教育実習の体験談を聞くコンパをやはり慣例としている。

資料 8

平成2年度『国語科教育法』成績評価表

久保 朝孝

学籍番号 _____ 氏名 _____

平3. 1. 30. Wed. 現在

【成績評価の基準】

	A	B	C	D	評点
1 出席状況	A	B	C	D	_____
2 教材選択	A	B	C	D	_____
3 日本国憲法	A	B	C	D	_____
4 教育基本法	A	B	C	D	_____
5 学校教育法	A	B	C	D	_____
6 学校教育法施行規則	A	B	C	D	_____
7 学習指導要領〔総則〕	A	B	C	D	_____
8 学習指導要領〔国語科〕	A	B	C	D	_____
9 学習指導要領〔道徳〕	A	B	C	D	_____
10 学習指導要領〔特別活動〕	A	B	C	D	_____
11 試験問題作成	A	B	C	D	_____
12 試験問題批判（自己評価）	A	B	C	D	_____
13 試験採点批判	A	B	C	D	_____
14 模擬授業批判	A	B	C	D	_____
15 模擬授業	A ^o A A ^x B ^o B B ^x C ^o C C ^x D				_____
16 定期試験	A ^o A A ^x B ^o B B ^x C ^o C C ^x D				_____
17 自主レポート	A	B	C	D	_____

※ 出席状況は欠席回数 0 = A, 1 = B, 2 = C, 3以上 = Dとする。

合計	点
----	---

【評点・評価】

A : 5点 B : 4点 C : 3点 D : 2点

ただし、模擬授業・定期試験については次のとおり。

A^o : 15点 A : 14点 A^x : 13点 B^o : 12点 B : 11点 B^x : 10点

C^o : 9点 C : 8点 C^x : 7点 D^o : 6点 D : 5点 D^x : 4点

また、自主レポートについては得点を2倍する。

合計 100点満点（ただし自主レポートを除く）

- 80点以上 優
- 60点以上 良
- 50点以上 可
- 50点未満 不可

以上